

せ

先行す 教師（保護者等）の思い 子等消沈

Keyword：子どもの思い、教師の思い、支援（指導）とは？

私の五七五をご理解いただくため、以下、卒業生凜子さんからの書簡を引用します。

時候の挨拶等（略）／毎日、のんびりと（育休中）、しかしあわただしく過ぎる日々ですが、やはりふと、仕事のことや、大好きな図工のことをちらりと思ったり考えたりします。そこへ、若元先生から「3HちゃんTシャツ^{*2}」をいただき、やっぱり「3Hちゃんが大事」だよなあ～と思い出したエピソードがあります。少し長くなりますが、読んでいただけると喜びます。



ある高学年担任の先生から、図工について、次のようなアドバイスをいただいたことがあります。「風景画を描かせるなら、（図柄の周りを）1ミリほどあけてぬらせるときれいに仕上がるよ。色ぬりの前にぼくは練習させたよ。そしたら、けっこういい線（糞にけっこう入ったという意味で）いったよ。」もちろん、私はこのアドバイス通りに授業はしませんでした。そこにハート（心）もヘッド（頭）もなく、もちろんそれは、心も頭もともなわないので技能でもないからです。子ども自らが「少し間をあけるとぼくがなっとくいくぬり方になる!!」と発見した方法であるなら、技能だと思えますが。

また一つ。ある校長先生が私が図工が好きだということで過去の子どもの作品を見せてくださいました。私は作品を通して子どもたちのどんなエピソードが聞けるのか楽しみにしていました。見せていただいた作品はどれも大人顔負けの立派な作品たちでしたが、作品を制作中の子どもたちのエピソードは聞けませんでした。校長先生はある絵を取り上げ（それはかぶと虫が大きく書かれた絵でした。）「これはおいしいんだよ。もう少し紙をぐちゃぐちゃにすればよかった。紙を一回ぬらすとおもしろい仕上がりになるんだよ。」と教えてくださいました。私は、どこかおうちにでも飾るために指導しておられるのかなと思いました。

お二人ともとてもお世話になった尊敬する先生方です。図工のコメントについても腹立たしい気持ちも全くありません。しかし、どうして、このような図工ばかりが聞こえてくるのでしょうか。

若元先生に学び3Hちゃんの図工が当たり前だと思って卒業して、六年が過ぎます。まだまだ新米ですが、子どもたちが考え、思い、形や色にする図工ではなく「結果としての図工」「子どもが考えない図工」をたくさん目にします。

私もまだまだ勉強不足なのに、少し生意気なことを書きました。すみません。

ただ、若元先生の「3HちゃんTシャツ」を見て急に書いてお伝えしたくなりました。意味の分からない部分があったら申し訳ありません。

さて、読者諸賢はこの「文面」をどのようにお受け止めですか。

*2「3HちゃんTシャツ」とは広島大学離任に際し、3Hのロゴをいれ私がデザインした「独善的オリジナルTシャツ」のこと。